愛知工業大学研究報告
第 49 号　平成 26 年

画像を利用したメタファー学習の可能性について
―日中両言語における〈怒り〉のメタファーを例に―

Exploring the Possibility of Metaphor Learning Using Images:
A Case of ANGER Metaphor in Japanese and Chinese

韓涛 †
HAN, Tao

Abstract　Metaphor is an important concept in the cognitive linguistics. In this paper, we explore the possibility of metaphor learning using the images on the net. As an example, we show that it is possible for Japanese learners or Chinese learners to understand well the similarities and differences of a metaphor of “anger” in Japanese and Chinese, by retrieving multiple images related to “anger” on both Japanese and Chinese web sites.

Both in Japanese and Chinese, the domain of anger can be understood in terms of fire by learners. This can be confirmed with the retrieved images that we present to them. On the other hand, the domain of anger can also be understood in terms of *qi(気)* for Chinese learners, which cannot be seen in Japanese. Unlike the metaphor of "anger is fire," in which the aspect of heat has been focused on, the metaphor of "anger is qi" in Chinese is not necessarily to focus on the aspect of heat. This can also be confirmed from the retrieved images.

1. はじめに

鍋島 2006 では大学の参加型概念教育の一環として、メトニミーの学習に（メトロン君という）キャラクターを使用した手法の有効性が論じられている。こうした手法がある一方で、認知言語学におけるもう 1 つの重要な概念であるメタファーをいかに効果的に習得することができるかに関する報告や考察はほとんどみられない。本稿では日中両言語における〈怒り〉のメタファーを例に、画像を利用したメタファー学習の可能性について探ってみる。具体的には日本と中国のインターネットのサイトから〈怒り〉に関する画像を収集し、複数の画像を提示することで、中国語学習者もしくは日本語学習に日中両言語における〈怒り〉のメタファーの類似点と相違点に対す
る理解を促そうとするものである。

なお本稿の構成は以下の通りである。第 2 節では認知メタファー理論における「メタファー」という概念について簡潔に確認しておく。第 3 節では日中両言語における〈怒り〉のメタファーの類似点と相違点を議論しながら、インターネットから集めた画像との関連性について言及しつつ、画像を利用したメタファー学習の方法を論じる。

2. 概念化装置としてのメタファー

メタファーという概念は古くアリストテレスの時代にまで遡ることができ、長い間“a figure of speech”すなわち「言葉のあや」とみなされてきた。これに対して 20 世紀 80 年代に Lakoff and Johnson によって確立された認知メタファー理論では、メタファーの概念化装置としての可能性が論じられている。メタファーが概念化装置として機能する際に、2 つの側面が考えられ、1 つは「存在的対応関係」に関するものでもう 1 つは「認識的対応関係」に関するものである。以下、例（1）を例に当該 2 つの側面をみてみる。

†　愛知工業大学　基礎教育センター

(1) 所以，我对婚姻的定义是：婚姻就是那辆你开顺手的老破车，它伴随你走过了很长的旅途，随着时间的推移，它需要维护，修理，甚至有可能半道罢工。如果你一直坚持不换，其实到老了，它依旧可以陪伴你，只是功用不同。……

车要是半道罢工了，对你是个很大的问题。你是站在路边跟它耗着，还是搭个顺风车继续前行，等着它被拖回去，你一回家它又在那里等你？抑或我索性不要了，换辆新车开开，但你不可能徒步到达目的地。多老，你都需要交通工具。

（六六《妄谈与疯话》 下線および日本語訳は引用者による）

［だから、私の婚姻に対する定義はこうだ：婚姻とはすなわちあなたが乗りこなしたボロ車である。あなたと共に長い旅をし、時間の推移に伴ってメンテナンスと修理が必要になり、道中で故障する可能性だってある。もしあなたがずっと買い替えをしようとしないのなら、古くなってもそのボロ車は依然としてあなたのお供をすることができる。ただしその働きは異なる。…

道中で車が故障したら、あなたにとって大きな問題だ。あなたは道端に立って何もせずただ車と時間をつぶすか、それともヒッチハイクして旅を続け、車が家まで運ばれるのを待って、あなたが家に着いたときに、その車がまたそこであなたの帰りを待っていることにするか。或いは思い切って故障した車を乗り捨てて新車を運転することにしてみる。しかしあなたは徒歩では目的地に辿り着くことができない。なぜならどんなに老いても、あなたには乗り物が必要だからだ。］

例（1）は中国語の《恋愛は旅》というメタファーの具体例である。例（1）では〈旅〉に関して、“你”という〈旅人〉、“老破车”という〈乗り物〉、“目的地”〈目的地〉という 3 つの構成要素が文字通りの〈旅〉ではなく、いずれも〈恋愛〉を表すのに用いられている。このとき概念レベルにおいて〈旅人〉は〈夫もしくは妻〉、〈乗り物〉は〈パートナー〉、〈目的地〉は〈恋愛のゴール〉とそれぞれ対応している。

注意すべきは、メタファーによるこの種の概念化は推論のレベルにまで及んでいる点である。例(1)でいえば、旅の最中、長く乗っていた車が突然故障した際に考えられる選択肢は、そのまま〈恋愛〉に関する推論に転用されうる。すなわち“站在路边跟它耗着”［道端に立って車と時間をつぶす］、“搭个顺风车继续前行”［ヒッチハイクして旅を続ける］、“索性不要了，换辆新车开开”［思い切って故障した車を乗り捨てて新車を運転することにしてみる］のうち、1 つ目の選択肢は彼（ないしは彼女）が今の 2 人の関係を修復しようともせず、終止符を打とうともせず、消極的な態度をとっていることを意味する。2 番目を選択した場合、それは今 2 人の間で問題が発生しているものの、それでも何とかして困難を乗り越えて関係を維持したいということを、3 番目の選択肢を選んだ場合には、それはとりもなおさず彼（ないしは彼女）が今の関係を断ち切ろうとすることをそれぞれ意味する。

認知メタファー理論では要素と要素の対応関係は「存在的対応関係」と呼ばれ、知識と知識の対応関係は「認識的対応関係」と呼ばれる。メタファーの内実はこの 2 種類の対応関係によって構成されるといっても過言ではない。

3. 日中両言語における〈怒り〉のメタファーの類似点と相違点

次の例（2）（3）が示すように、日中両言語において〈怒り〉はいずれも〈火〉という具象性の高い概念を通して理解されうる。例（2）は日本語の具体例であり、例（3）は中国語の具体例である。

(2) a. 怒りに油を注ぐ
b. 怒りに燃える
c. 怒りが燃え立つ
d. 怒りが燃え上がる

(3) a. 点燃心中的怒火
［心中の怒りに火をつける］
b. 怒火复燃
［怒りの炎が再燃する］
c. 火冒三丈
［（怒りの）炎が 3 丈の高さまで燃え上がる］

例（2）（3）では〈怒り〉は〈燃えるもの〉に喩えられており、〈火〉のように油を注ぐと激しく燃え上がることや、一度消えたものがなんらかの条件で再燃することも可能である。

一方、日本と中国のインターネットサイト[1]で「怒り」と“怒”をキーワードとしてそれぞれ検索すると「火」の画像が多くみられる（図 1、図 2 参照）。

【図 1】　日本語の《怒りは火》の画像

【図 2】　中国語の《怒りは火》の画像

このことは、上でみた日中両言語における〈怒り〉がいずれも〈火〉の観点から捉えられるという言語事実と一致している。しかしなぜ日中両言語では〈怒り〉は「氷」のような〈冷たいもの〉ではなく、〈火〉という概念を通してメタファー的に理解されるのであろうか。

本稿ではその動機づけは人間の身体的経験、具体的にいえば感情とそれによってもたらされる生理反応にあると考える。Lakoff 1987 によれば、〈怒り〉という感情が生じる際に、「体温の上昇、体内の圧力の増大、心身の動揺、それに正常な知覚の阻害」といった生理反応が観察される。このうち、「体温の上昇」（つまり「身体から熱が放出される」）という生理反応が〈火〉のイメージを喚起するのに重要な役割を担っているといえる。このとき特定の感情が生じる際に伴う体温の上昇と、基本レベルのカテゴリーに属する〈火〉のもつ〈熱〉という属性の間にある種の類似性を見出すことが可能である。そしてこの種の類似性は日本語のみならず、中国語にも観察される。

以上のことから、日中両言語における《怒りは火》というメタファーは、学習者に容易に取得されると予測できる。しかし、留意すべき点もある。中国人日本語学習者が日本語の《怒りは火》を学習する際に、特に以下のメタファー表現に注意しなければならない。

（4）　双方がぼうぼうと燃え盛り、つまらない事に巻き込まれていきます。…メラメラとした怒りは邪悪の象徴です。

http://yoshiko115.exblog.jp/17233565/

（5）　僕は静かに言ったけれど、心の中では怒りの炎がちろちろと燃え始めていたんです。

http://ncode.syosetu.com/n2960w/17/

（6）　怒りが陽炎のようにゆらゆらと立ち上っている

http://www.pixiv.net/novel/show.php?id=1571955

例（4）～（6）が示しているように、日本語では「ぼうぼう」「メラメラ」「ちろちろ」「ゆらゆら」といった〈火〉の燃え上がるさまを描写する表現も〈怒り〉を特徴づけるのに用いられる。しかし同様のメタファー表現は中国語にはみられない。そのため、上記のメタファー表現を学習する際に、次の図 3～図 6 のような画像とともに提示すると学習者はこれらの表現に対する理解を深めることができると考えられる[2]。

【図 3】　ぼうぼうと燃える火

【図 4】　メラメラ燃え上がる火

【図 5】　ちろちろと燃える火

【図 6】 ゆらゆらと燃える火

一方、（上級の）中国語学習者は文章などを読む際に、メタファーによる語の多義性という現象に注意する必要がある。例えば次の例（7）における“点火”［火をつける］という表現は夫婦の間で異なる解釈がなされている。

（7） “少跟我说天性，你们男人的天性就是喜新厌旧，贪图美色。” ……他噗嗤就乐了：“闹了半天，是刘小娆点的火儿啊？”“滚滚滚，她烧锅炉的啊？点个屁火。”
（唐欣恬《裸婚》 下線および日本語訳は引用者による）
［「私に本性のことなんか言わないで。あなたたち男の本性は新しいものを好み、古いものを嫌うもので女には目が無いんだから。」…彼はぷっと笑った「なんだ、劉小娆が（君に）火をつけたのか？」「さっさと消えなさい！彼女はボイラー技師かしら？火をつけるって何なのよ。」］

具体的にいうと、夫は“点火”を一種のメタファー表現として用いているのに対し、妻は夫の質問に素直に答えたくないため、“点火”を敢えて字義通りに解釈している。こうすることで〈議論〉に関する攻防の中で「劉小娆」という女性と密会したのではないかと夫に腹を立てている妻は、攻められる側から攻める側に役割転換を果たすことができたのである。

《怒りは火》以外に、日本語では〈怒り〉はさらに〈熱い液体〉を介してメタファー的に理解されうる[3]。

（8） a. お湯がぐらぐらと煮えたぎる
b. 怒りがぐらぐらと煮えたぎる
（9） a. やかんが湯気を立てている
b. 頭から湯気を立てて怒る

例（8）（9）が示すように、〈怒り〉はお湯のように「ぐらぐらと煮えたぎる」ことや、一定のレベルに達すると「湯気が立つ」ことができる。これらのことを学習者に理解させる際に、次のような画像もあわせて提示すると日本語の《怒りは熱い液体》というメタファーをより効果的に習得できると考えられる。

【図 7】 「煮えたぎる」の画像

【図 8】 「湯気が立つ」の画像

例えば図 7 を一種の手がかりとして提示すれば、日本語学習者は次の例（10）のようなメタファー表現の表す意味をより明確に把握できると考えられる。

（10） 俺様、本日もなぜか理由もなく怒っている。（中略）心の奥の方から、グラグラ、グラグラ、沸騰するお湯のように、怒りの気泡が沸きあがるんだよな。で、どうにもならんのです。で、沸騰するままにしておきました。ヘタに手を入れると火傷するしね。
http://ameblo.jp/hemi931ojisan/entry-11095331549.html

図 7 から、「沸騰したお湯に手を入れると火傷するため、そのような行動をしない方がよい」といったことが容易に連想できる。そしてこの種の百科事典的知識に基づいてはじめて学習者が「で、沸騰するままにしておきました。ヘタに手を入れると火傷するしね。」という文の表す意味について理解可能となる。

日本語における《怒りは火》や《怒りは熱い液体》に比べ、中国語における《怒りは気》をどのように中国語

学習者に効果的に習得させるかが大きな課題である。「気が狂う」「気が短い」や「彼女に気がある」が表しているように、日本語にも〈気〉という概念が存在する。しかし日本語の〈気〉は特に〈怒り〉を特徴づけるのには用いられないという点で中国語の〈气〉とは大きく異なる。次の例（11）は、中国語における《怒りは気》のメタファー表現の一部である。

（11）a. 他买菜的时候因为斤两问题与小贩拉拉扯扯，生了一肚子气　　（CCL）
［彼は野菜を買う際に目方が足りないということで行商人ともめ、むかむかした（←腹いっぱいの気が生まれた）］

b. 村里的人们看见要活埋何世清，都气鼓了肚子。　　（CCL）
［村人は何世清を生き埋めにしようとするところをみて、皆激怒した（←気で腹が膨らんだ）。］

c. 林雁冬的脸“腾”地红了，正想给他顶回去，就见姜局长那双小眼睛直瞪着自己，她才使了使劲，把这口气咽了下去。　　（CCL）
［林雁冬はぱっと顔を赤くした。彼に突っ張り返そうと思ったら、姜局長のあの小さい目でにらみつけられているのをみた彼女は、我慢して怒りをおさえた（←その気を飲み込んだ）。］

d. 他忍耐不住，一肚子气差点要爆发出来了。　　（CCL）
［彼はおさえられず、怒り（←腹いっぱいの気）がもう少しで爆発するところだった。］

e. 玉儿妈一肚子气都往丈夫身上喷　　（CCL）
［玉児の母は夫を怒鳴り散らした（←夫を目がけて腹いっぱいの気を噴出した）］

f. 娟子早气破肚子了。　　（CCL）
［娟子はとっくに怒りを爆発させた（←気で腹が破れた）。］

例（11a）～（11f）からは中国語の《怒りは気》にかかわる次のようなシナリオが読み取れる。まず〈気〉が何らかの原因で〈容器〉としての〈身体部位〉の中で生まれる（例（11a）参照）。そして〈気〉の激しさの増大に伴い、容器内の圧力が増しはじめる（例（11b）、図 9 参照）。ここで〈気〉の持ち主は容器が爆発しないよう〈気〉の勢いをおさえる行動をとるが（例（11c）参照）、〈気〉の勢いがおさえる力を上回り、容器の中の圧力が限界点に達した場合、容器が爆発し、周りにいる人や〈気〉の持ち主自身が被害を蒙る対象となる（例（11d）～（11f）参照）。

【図 9】　中国語における《怒りは気》の画像（ｉ）

ここで注意すべきは、これまでみてきた〈火〉のメタファーや〈熱い液体〉のメタファーは主に〈熱〉という側面を焦点化しているのに対し、中国語における〈気〉のメタファーは主に〈容器の内部の圧力〉を焦点化しているという点である。このことは、次の例（12）からも確認できる（図 10 も参照）。

（12）　七窍生烟［目・耳・鼻・口から煙が出る］；血压升高［血圧が上がる］；摩拳擦掌［腕を鳴らし手ぐすね引く］；吹胡子瞪眼睛［恐ろしい剣幕になる］；吐唾沫［つばを吐く］；脸发紫［顔が紫色になる］；脸色苍白［顔色が青白い］；脸通红［顔が赤くなる］；脸色铁青［顔色が真っ青になる］；瞪圆双眼［目を丸くする］；昏过去［気を失う］；直翻白眼［白目をむく］；暴跳如雷［足を踏み鳴らして烈火のごとく怒る］；发疯［発狂する］；两眼直冒火星［かんかんになって怒る］；浑身打颤［全身が震える］；捶胸顿足［胸をたたき地団駄を踏む］；手脚冰凉［手足が冷たくなる］……

例（12）はいずれも“气得 X”［X するほど怒る］と共起可能な表現であり、〈気〉の激しさで容器の圧力の増大によりもたらされるさまざまな生理反応や身体的行為を表している。とりわけ“手脚冰凉”［手足が冷たくなる］という表現が示すように、中国語では〈怒り〉が〈気〉を介してメタファー的に理解される際に、必ずしも〈熱〉という側面が焦点化される必要がない。このことはさらに、中国のインターネットサイトで“生气”［怒る］をキーワードに検索し得られた画像の中に〈熱〉に関連する画像が極端に少ないということからも窺える。

【図 10】　中国語における《怒りは気》の画像（ⅱ）

４．おわりに

メタファーは認知言語学における重要な概念の 1 つである。本稿では日中両言語における〈怒り〉のメタファーを例に、オンライン画像を用いてメタファーを効果的に学習する方法を論じた。今後本稿で提示された手法を教育現場に応用し、その有効性についてさらに検証していきたい。

注

1　本稿では検索エンジンとして日本語ではヤフー（ http://www.yahoo.co.jp/ ）、中国語では百度（http://www.baidu.com/）をそれぞれ用いた。

2　図 3～図 6 は「ぼうぼう」や「メラメラ」をキーワードとし検索した結果、インターネットサイトから得られたものである。

3　例（a）にみられるように、《怒りは熱い液体》のメタファーは日本語ほど顕著ではないものの、中国語にもみられる。

（a）　我在房间里来回踱步，无法克制自己沸腾的怒火。（CCL）

［私は部屋の中で行ったり来たりして、煮えたぎった怒りをおさえられない。］

謝辞

本稿は、外国語教育メディア学会中部支部第 81 回支部研究大会（2013 年 5 月 25 日、於東海学園大学（名古屋キャンパス））での口頭発表原稿に加筆・修正を加えたものである。発表ならびに執筆の際、多くの方にお世話になった。ここに記して感謝の意を表したい。なお、本稿に関する不備はすべて筆者に帰するものである。

参考文献

韓涛（2013）.「第 12 章　認知言語学」劉笑明・劉驫（編著）『言語学―理論と応用―』 pp.325-370.天津：南開大学出版社.

韓涛（2014）.『中国語の概念メタファーに関する研究―認知メタファー理論の立場から―』名古屋大学大学院国際言語文化研究科　博士論文.

Lakoff, George. (1987).　*Women, fire, and dangerous things*. Chicago: The University of Chicago Press.

Lakoff, George. (1993). The contemporary theory of metaphor. A.Ortony(ed.)，*Metaphor and thought*，202-251, Cambridge University Press.

Lakoff，George and Mark，Johnson. (1980). *Metaphors we live by.* Chicago: University of Chicago Press.

鍋島弘治朗（2006）.「キャラクターを使った参加型概念学習―メトニミーのメトロン君プロジェクト報告―」『関西大学視聴覚教育』29，pp.　1-11.

野村益寛（2002）.「〈液体〉としての言葉―日本語におけるコミュニケーションのメタファー化をめぐって―」『認知言語学Ⅱ：カテゴリー化』pp.37−57，東京：東京大学出版会.

Reddy，M，J. (1979). The conduit metaphor: A case of frame conflict in our language about language,，A.Ortony(ed.), *Metaphor and Thought*，284-324, Cambridge: Cambridge University Press.

用例出典：北京大学中国語言学研究中心（CCL）語料庫 (http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/index.jsp?dir=xiandai)

（受理　平成 26 年 3 月 19 日）